

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」  
事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 北茨城市立石岡小学校 】

1 実践テーマ	V
2 実施対象者 (学年・人数)	北茨城市立石岡小学校 全校児童（1年5名、2年1名、4年1名、5年3名、6年2名）計12名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>①教科名 (体育科, 総合的な学習の時間, 学級活動)</p> <p>②行事名 (運動会, 三世代交流石岡小祭り)</p> <p>③その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>①イベント名 ( )</p> <p>②その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<p>◎ スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成</p> <p>○ スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築</p> <p>○ マナーとおもてなしの心を備えたボランティア精神の涵養</p>
5 取組内容	<p>(1) スラックライン経験児童の演技による興味・関心の高揚</p>  <p>(5月運動会)</p> <p>(2) 体育科（スラックライン等の体験）</p> <p>①スラックライン教室 講師 北茨城市スラックライン協会</p>  <p>(11月体育科 2日間延べ3時間)</p>

	<p>②ソフトバレーボールからシッティングバレーボールの体験          ③業間休み（業間運動）で実施（スラックライン、フライングディスク、Xジャイロ）</p>  <p>(3) 総合的な学習の時間</p> <p>①スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する調べ学習          ②「三世代交流石岡」祭りでのパラリンピック競技種目紹介パネルの作成</p>  <p>(4) その他</p> <p>①ボランティア精神の涵養 → 卒業生が運動会で準備係の手伝い          ②ボッチャ体験の際に講師の障害者仕様の乗用車に乗車</p>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度から2年間、継続したことと国体観戦（ソフトテニス）ができたことでオリンピック・パラリンピックへの関心がさらに高まった。</li> <li>・運動時間の増加傾向及び運動への主体的な関わりが増えた。</li> <li>・本事業で購入したスラックレールを業間休みや体育授業時の導入で行っている体幹トレーニング等のコースに入れることでバリエーションが増えた。そのため、トレーニングへの関心や体力(調整力)の高まりが見られた。</li> <li>・障害者への理解とボランティア精神の高揚</li> <li>・道徳的実践意欲の向上</li> </ul> 
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育科の授業内で体験を重視するとともに業間休みを利用して多くのニュースポーツを紹介した。また、スポーツにつながる昔遊びを体験した。特に巧緻性や調整力を必要と考えられるものを多く取り入れた。</li> <li>・小規模校のため、全校体育で高学年児童から低・中学年児童への技術指導を行った。また、今年度は、1・2年生が全校の半数なので、上学年の下学年への関わりが増え、思いやりなどの心が育まれた。</li> </ul>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育科の授業を中心に事業を進めたが、多くの種目を経験させるためには、年間指導計画への位置付けをはじめ、業間運動等の時間を含めた計画的な実施が必要である。</li> <li>・生涯スポーツを踏まえた継続的な運動実践を図るための環境整備の必要性を再認識した。運動の日常化のためには、学校保管の用具が必要である。自作教材での事故が報告され、その管理が厳しい中で用具を購入する予算の確保は難しい。また、用具を必要としない運動や運動の日常化につなげる指導力の向上も大切である。</li> </ul>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育科年間指導計画への明示</li> <li>・業間運動や昼休みに体験できるニュースポーツの整備</li> <li>・保護者及び地域の方々への発信及び共に体験する企画</li> </ul>